

# 高等学校における進路指導の在り方と面接指導法

## ——進路指導と効果的な面接指導法の一考察——

名古屋市立若宮商業高等学校 服部 文彦

### 1. はじめに

本校は、愛知県名古屋市天白区に位置し、昭和38年に創立された名古屋市の単独商業高等学校である。パソコン設置台数は300台以上と愛知県内でも数少ない情報の環境に恵まれた学校で、どの科目でも1人1台の情報機器を使った実習やインターネット接続ができるようになっている。

学科の編成は、総合ビジネス科、情報ビジネス科、会計ビジネス科の3学科で、総合ビジネス科は、さらにビジネスコース、インテリジェントデザインコース、環境ビジネスコースの3コース制となっている。環境ビジネスコースは、愛知県内で唯一環境に関するビジネスについて学習するコースである。

資格取得に関する指導は、各学科・コースの特色に応じた高度な資格の取得に力を入れている。情報の分野では、専門教科「情報」の科目を一部取り入れている効果もあり、毎年国家資格である基本情報やシスアドの合格者を出している。

秘書検定では、平成14年度に、1級に一次合格した高校生3名の中に本校の3年生1名が初めて名をつらねた。さらに、準1級では、平成14年から平成19年にかけて6年連続合格者を出しており、高等学校における合格実績は東海地区では1位、全国でも2位である。2年前には、名古屋市内では準1級に最年少で合格した。また、昨年、南山大学に初めて推薦合格者を出したのも、秘書検定の面接指導を進路指導に活かした成果の1つである。

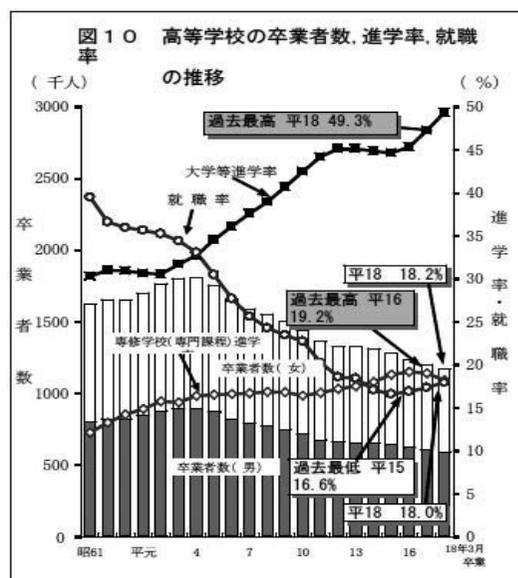
秘書検定の上級資格取得に向けた取り組みを就職面接対策指導につなげた結果、トヨタ自動車（事務職）を初め大手企業の就職では100%の合格率を達成した。受験した生徒の面接に対して企業の人事担当者から、「面接に関しては高校生の中で一番であり大変良い」と高い評価をいただいた。

本稿では、企業の求める実践力、応用力のある人材の育成という観点から、専門高校の進路指導の在り方を研究考察した。

進路指導における面接指導は、外部講師に一任したり、1度だけの直前の指導ではなく、2度3度の継続的な指導を展開することによって、実際の面接に対応できるものと考えている。秘書検定準1級の面接を有効に活用して進路指導の面接指導に役立てるとともに、そうした指導が企業が求める基本的な実践力の育成にもつながることについても考察した。

### 2. 高卒求人をめぐる状況

これまで女性を中心に採用してきた一般職（事務職）や単純周辺労働は、契約社員、派遣社員、パート、アルバイトなど短期の臨時的な労働力に置き換えられているという現状である。新卒の派遣社員採



文部科学省（卒業後の状況調査）より

用が急激に増え、新卒で就職するとき非正規雇用を選択する女子学生も多くなってきた。

一方、ここ数年、高校生の求人に対する正社員の採用数は増加傾向にある。トヨタ自動車の好調な業績が中小企業の求人増に拍車をかけていることもあり、愛知県は全国で一番求人に恵まれている状況にある。しかし、誰でも採用されるというわけではなく、生徒に求める条件についてはハードルを低くせず企業の求める人材に合致しなければ採用することはない。

### 3. 「経済活動と法」, 「課題研究」での新聞活用

前任校である愛知県立東海商業高校では、NIE実践校に指定され1年生の「ビジネス基礎」6クラスと2年生の選択科目「商業法規」1クラスで新聞を活用した様々な実践を行った。本校でも平成19年度に初めてNIE研究指定校になり、「経済活動と法」, 「課題研究」の授業で表現力, 理解力, 読解力向上のために新聞を活用した授業を前任校で得た知識を活かしながら実践した。

興味ある記事をプリントにして、重要箇所のマーキングや重要語句を選出させたり、要旨・感想・意見等をまとめさせることで生徒の国語力の向上と就職・進学 of 論文作成の対策に活かしている。

効果として、継続的に新聞を読む習慣ができ、難解な漢字や用語を理解できるようになり、作文能力が養われた。この指導を通じて生徒の興味・関心の高い分野が把握でき、時には教師が知らない情報が提供され驚かされた。また、同じ記事でもいろいろな角度からの見方や考え方があり、自分の考えをまとめて他人に分かりやすく発信することはコミュニケーション能力を養うきっかけにもなった。

新聞は社会的に信用度の高い資料となっているが各新聞に主張の相違もあるので、生徒には情報を正確に取捨選択できる能力を身に付けさせたい。これらの指導により漢字・語句の正しい使い方の理解度や文書作成能力・表現力などの向上がみられ、就職・進学の際の論文・面接にも有効である。

### 4. 「課題研究」での指導

本校の「課題研究」のうちの一つのテーマである『社会人に挑戦』は、簿記検定を中心にしたつ

の検定にも力を入れている。しかし、単に情報処理、ワープロ、秘書検定等の知識の理解だけでなく、実習を多く取り入れ、状況対応が出来る人材を育成できる授業を構築している。販売職、事務職を想定した状況対応指導を展開して、JR東海、トヨタ自動車、マルアイ、浜乙女、資生堂等の合格に導いた。

3学期は、就職後指導の一環として1年間の課題研究の研究発表を行い、コミュニケーション能力の向上を重点に指導した。秘書検定の取り組みだけでなく自分の1年間の研究を発表、さらに、状況対応の実技指導を導入して、正しいマナー等について討論し、正確な状況対応を学習することで社会人としてのマナーを身に付けた人材を育成した。

状況対応とは、職場での様々な状況に応じた対応の仕方をいうのであり、社会人としてあらゆる場面・状況に対して瞬時に行動できることである。この状況対応は、秘書検定の指導内容であり、正式な用語ではない。

### 5. 秘書検定の取り組み

<進学・就職直前対策講座>は、3年生全員に各クラス単位で夏季休業中に専門学校の先生に面接指導をしていただいている。10月には、「接遇とマナー講座」を行いお茶の入れ方、名刺のもらい方、敬語の使い方を指導している。こうした取り組みは現在も3年生対象で実施している。

<秘書検定対策講座>は、現在も私が企画運営している。平成14年度には、準1級に4人が合格し、高校では全国1位になり検定協会から取材を受け、全国に私の取り組みが発信された。さらに、平成



秘書検定準1級指導の一場面

17年「団体優秀賞」を検定協会からいただき大きな励みとなった。

(平成18年度合格者下山さんの感想)

「秘書検定準1級の勉強は、本当に大変でした。特に、面接練習が厳しく大変でしたが後輩や卒業生の暖かい指導で、とても自分の力になったと思います。面接練習をしていく中で就職対策になり見事トヨタ自動車事務職が合格できたことが何より嬉しく、秘書検定準1級合格はトヨタ合格後であったので、嬉しさが2倍でした。さらに私で5年連続合格になったので、さらに後輩に6年目指して頑張ってもらいたいです。」

毎年、準1級に合格している要因として、生徒主導で面接指導を展開していること、合格した卒業生が後輩のために会社帰りや休日に指導しに来てくれることがある。生徒自身もこの秘書検定の面接指導が就職対策に有効であり本番の就職面接よりも厳しいと語っている。

面接指導では、入室時の声の大きさや笑顔についての徹底的な指導、次にお辞儀の角度と敬語の指導、報告時の表情指導、特に退出時の声の大きさ、笑顔に重点を置いた指導を行い、途中の応答に関しては上手に出来なくても就職面接に大きな影響がないと考えるので、面接指導には途中の応答を省略して指導している。

また、面接官を1年生にすることで、面接の雰囲気や緊張感が増加して効果的である。最後の仕上げに準1級に合格した卒業生が面接指導に加わり私と2人で指導している。私よりも厳しいコメントをする卒業生の指導が生徒に良い影響を与え、私よりも恐れられている。笑顔で「もう一度やって見よう」



秘書検定準1級指導の一場面

と言われると素直になり、一番素敵な笑顔が出来るように自信をつけさせて面接試験に挑んでいる。

## 6. まとめ

秘書検定準1級指導を始めたのが5年前のことで当時の生徒の8人が受験して4人が合格した。1級も全国で一次合格した高校生3人の中の1人に入った。本校の特色は、面接官が後輩で、受験者が3年生といういささか普通の指導ではない点にある。

注意するポイントを事前に伝えておくと教員とは異なる視点から見たままのコメントをしてくれる。さらに、指導法の向上を目指して私自身秘書検定1級を取得し、生徒に還元している。また、毎年合格した卒業生が後輩のために指導に来てくれることや、外部講師として指導できるまでに成長したことが何より嬉しい。さらに、受験した生徒だけでなく、多くの面接官をしてくれた後輩の1・2年生も目の前



準1級模範演技



秘書検定準1級指導の一場面

で面接練習を見学でき、面接の必要なことを理解していくことも出来るのが最大の効果である。秘書検定準1級を受ける生徒だけでなく、快く面接官を手伝ってくれる本校の後輩生徒が今後の面接指導に役立てるといふ2つの効果と達成度を期待して展開する指導方法である。

今回の指導法の確立に関して、平成6年から秘書教育を指導して三重県で経理実務部を設立、多くの専門学校の授業見学や日本秘書教育学会出席、検定協会主催の地方研修会出席、特に日本秘書教育学会の会員の先生の授業見学で、専門学校生と一緒に授業参加もさせていただいた。昨年度は、日本秘書教育学会高等学校のパネラーとして講演をさせていただき、多くの高等学校の先生方との交流ができた。最後にこれまでの指導を受けた卒業生の感想を記載して本稿を閉じる。



名古屋市内最年少準1級合格の柴田さん

(平成17年度合格者柴田さんの感想)

「社会に出てこの検定の技能を十分に活かしていきたいと思います」(注、柴田さんは、本校2年生時に準1級に合格した。)



第77回秘書検定1級満点で文部科学大臣奨励賞を受賞した佐野先生に本校1年生の林さんが面接指導している場面

(専門学校教諭佐野先生の感想)

「過去に準1級取得しているもので、ぜひ1級取得を目指して1級面接指導に挑み、見事1級合格を果たし、さらに満点で文部科学大臣奨励賞をいただき感謝感激も2倍です。来客対応の客に服部先生と1年生がなり、1年生の考えもつかないいやな客に私自身たじたじでしたが、本番の面接は練習よりも簡単で1年生の指導が良い状況対応の勉強になりました。」